

国立病院機構熊本医療センター

No.208



くまびょう NEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市中央区二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501(代)
FAX (096) 325-2519



熊本市医師会会長
福島敬祐先生のご挨拶の様子

平成26年度 第1回(通算37回) 開放型病院連絡会が開催されました

平成26年度第1回(通算37回)国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会を、去る9月10日(水)午後7時より、くまもと県民交流館(鶴屋東館)にて開催いたしました。登録医の先生方及び医療連携ご担当の皆さま総勢225名の方にご参加いただきました。

開会にあたり、河野院長より現状報告と日頃の病病・病診連携へのご支援に対し感謝を申し上げます。

続いて、開放型病院運営協議会委員長で、熊本市医師会会長の福島敬祐先生がご挨拶され、当院の地域の中核病院として、さらなる発展への期待を述べられました。

その後、熊本市医師会理事の田中英一先生と当院高橋毅副院長の司会で連絡会が始まりました。連絡会は、菊川浩明泌尿器科部長より「前立線がんの密封小線源療法(ブラキセラピー)の導入」について症例提示が行われました。この後、清川哲志地域医療連携室長に

よる「地域医療連携室からのお知らせ」、大塚忠弘地域医療連携室副室長による「紹介予約センターからのお知らせ」と続き、最後に熊本市歯科医師会会長の宮本格尚先生からご挨拶を頂き、連絡会を終了いたしました。

連絡会終了後は、会場を移して意見交換会が行われました。熊本市医師会会長の福島敬祐先生によるご挨拶の後、熊本市医師会副会長の園田寛先生の乾杯のご発声で意見交換会が始まりました。診療科毎に設置されたテーブルを囲んで、和やかな雰囲気の中で活発な意見交換が行われ、あちこちで名刺を交換する姿も見受けられました。途中、当院の各診療科部長(医長)一同がステージに上がり、高橋副院長より一人一人を紹介致しました。最後に熊本市医師会理事の家村昭日朗先生の閉会の挨拶で盛況のうちに無事終了となりました。(管理課長 清水就人)

基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営

患者様の権利

1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります



「大変お世話になっております。
感謝致しております。」

皮膚科耳鼻咽喉科 草場医院

院長

草場 辰哉



私の診療所はJR宇土駅から、徒歩5分ほどの距離にあります。20年前に新規開業いたしました。私が皮膚科、妻が耳鼻咽喉科です。

宇土市は小西行長の城下町、県の中央部に位置する、伝統文化の豊かな地域です。晩夏の地蔵祭りは特に有名で、沢山の人が出で賑わいます。

勿論、高齢化も顕著で、20年前の開業時より65歳以上の患者様が増加しております。しかし、新興の住宅も多く、子育て世代の家庭からの、可愛い患者

さんの来院は私と妻の診療のモチベーションとなっております。

私たち夫婦は昭和57年に大学を卒業して、貴院には昭和59年から60年かけて、当時の皮膚科部長 桑原先生に、ご指導頂きました。実力不足で、先生には大変迷惑をおかけしました。妻は耳鼻咽喉科 土生部長のとき、ご指導いただいております。また貴院副院長高橋先生は大学院の同窓であり、ご縁の深い病院です。

マイナー科とはいえ、時に緊急、入院が必要な患者様の来院もあります。しかも「緊急を要する人ほど、夕方などの時間外の来院が多い」傾向にあるのではと感じておりますが、開業の先生方、如何でしょうか？ その結果、「国立に連絡して」となるのです。

また、自分では難しいと思われる皮膚外科の手術は、形成外科にお世話になっております。美しい仕上がり、私も、患者様も大変満足しております。

還暦をすぎ、自分の高齢化も考えながら、程よくペースダウンをして、地域医療を続けることができると希望しております。

今後も、お世話になります。



電子カルテバージョンアップに伴う受入制限のお願い

平素より当院(救命救急センター)の運営につきましては、多大なご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当院では電子カルテバージョンアップに伴い、10月11日深夜帯に電子カルテがストップ致します。それに伴い、下記の時間帯に十分な救急受入ができない可能性があります。

また、一般外来につきましても下記の期間内は、多少お待ち時間がかかる場合がございます。下記の期間での外来診察予約をご希望の際にもご配慮頂けますと幸甚に存じます。

多方面にご迷惑をおかけしますが、心よりお詫び申し上げますと同時に、何卒ご理解いただけますようお願い申し上げます。

(副院長 高橋 毅)

**救急受入制限期間：平成26年10月10日（金）23：00から
平成26年10月11日（土）9：00まで**

**一般外来制限期間：平成26年10月14日（火）から
平成26年10月16日（木）まで**

病棟紹介

5 西病棟



5 西病棟スタッフ

5階西病棟は、血液浄化センター20床を有し、泌尿器科・腎臓内科・救急科の患者様の治療、看護を行っています。泌尿器科では悪性腫瘍の治療を中心に、尿路変更手術を受けられる患者さまも多く、皮膚・排泄ケア認定看護師と一緒に、ストマケア指導に力を入れています。また、尿路変更術を受けられた方々で構成される患者会「ひまわり会」を年2回開催しており、活発な意見交換と支援を行っています。平成26年3月からは、前立腺癌に対する永久挿入密封小線源療法を開始し、安心、安全に治療が受けられるような看護を提供しています。

腎臓内科は、年々増加している人工透析を必要とする腎不全患者さまの治療を中心に、血液透析、腹膜透析、血漿交換などのアフェレシスといった血液浄化療法を行っています。また、血液浄化センターは、透析療法従事職員の研修指定施設にもなっています。

救急科は24時間断らない医療で、救命病棟に入院された患者さまの後方支援病棟としての役割を担っています。医師、看護師、臨床工学技師とのチームワークを大切に、若い力と笑顔、パワーで、患者さまに安心で質の高い医療が提供できるよう日々努めています。

(5 西病棟師長 山口チハル)

血液浄化センター



臨床工学技士



永久挿入密封小線源療法専用の部屋



ひまわり会の様子



2014
診療科紹介 (75)
血液内科
(骨髄移植センター)



院長
河野 文夫 (かわの ふみお)
 血液内科、造血幹細胞移植、
 内科一般、膠原病
 日本内科学会総合内科専門医
 日本内科学会指導医・認定医
 日本血液学会指導医・専門医
 日本リウマチ学会専門医
 外国人医師臨床修練指導医
 日本がん治療認定機構暫定教育医
 熊本大学医学部臨床教授
 インфекションコントロールドクター



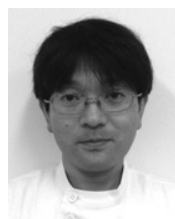
統括診療部長、地域医療連携室長
外来化学療法センター長
清川 哲志 (きよかわ てつゆき)
 血液内科、造血幹細胞移植、
 総合内科、医学教育、膠原病、
 化学療法
 日本内科学会指導医
 外国人医師臨床修練指導医
 熊本大学医学部臨床教授



部長
日高 道弘 (ひだか みちひろ)
 血液内科、造血幹細胞移植、
 内科一般、膠原病
 日本内科学会総合内科専門医
 日本内科学会指導医
 日本血液学会指導医・専門医
 外国人医師臨床修練指導医
 日本臨床腫瘍学会暫定指導医
 インфекションコントロールドクター



医長
原田 奈穂子 (はらだ なおこ)
 血液内科、造血幹細胞移植、
 内科一般
 日本内科学会指導医・認定医
 日本血液学会専門医
 日本がん治療認定医機構がん治療認定医



がん相談支援室長、腫瘍内科医長
榮 達智 (さかい たつり)
 血液内科、造血幹細胞移植、内科
 一般、腫瘍内科、緩和ケア
 日本内科学会指導医・認定医
 日本血液学会専門医
 日本臨床腫瘍学会認定がん薬物療養専門医



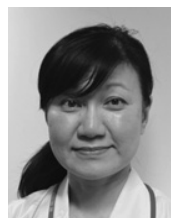
医長
井上 佳子 (いのうえ よしこ)
 血液内科、造血幹細胞移植、
 内科一般
 日本内科学会指導医・認定医
 日本血液学会専門医



医長
河北 敏郎 (かわきた としろう)
 血液内科、造血幹細胞移植、
 内科一般
 日本内科学会指導医・認定医
 日本血液学会専門医
 日本がん治療認定医機構がん治療認定医



医師
山口 俊一郎 (やまぐち しゅんいちろう)
 血液内科、造血幹細胞移植、
 内科一般
 日本内科学会認定医



医師
塚本 敦子 (つかもと あつこ)
 血液内科、内科一般、膠原病
 日本内科学会指導医・認定医
 日本内科学会総合内科専門医
 日本血液学会指導医・専門医

診療実績

平成25年度の血液内科入院数は1,021件502名でした。
 主な疾患は、

- ・悪性リンパ腫 123名
- ・骨髄異形成症候群 40名
- ・多発性骨髄腫 38名
- ・急性骨髄性白血病 66名
- ・再生不良性貧血 6名
- ・急性リンパ性白血病 14名
- ・成人T細胞白血病 22名
- ・特発性血小板減少性紫斑病 12名

1) 血液疾患

急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病、骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、再生不良性貧血、溶血性貧血などの難治性貧血、成人T細胞白血病、慢性骨髄性白血病、慢性骨髄増殖性疾患などあらゆる血液疾患に対する治療を行います。JCOG (日本臨床腫瘍研究グループ)、JSCT (Japan Study Group for Cell Therapy and Transplantation)、CHOT-SG (Clinical Hematology Oncology Treatment Study Group)、悪性リンパ腫フォーラム-KUMAMOTOなど国内の血液疾患を専門に診療するグループに属し、国内の各施設とも活発に交流を図り最先端かつ最良と考えられる治療を行います。

2) 造血幹細胞移植

当センターでは適応に応じて自己末梢血幹細胞移植、同種骨髄移植、同種末梢血幹細胞移植、臍帯血移植が可能です。また骨髄バンク、臍帯血バンクから認定された骨髄移植センターです。医師、看護師、歯科医師、薬剤師、栄養管理士によるチーム医療をクリティカルパスを用いて行っています。平成25年の移植症例数は自己末梢血幹細胞移植11例、同種移植が46例で、現在までの移植総数は自己末梢血幹細胞移植236例、同種骨髄移植225例（うち骨髄バンク移植150例）、同種末梢血幹細胞移植251例、臍帯血移植87例でした。熊本大学医学部血液内科などの熊本県下の主要な血液専門病院と毎月1回造血幹細胞移植連絡会を開催し、県下の移植症例のスムーズな医療連携を図っており、強力な連携体制をとっています。平成21年9月に完成した新病院には血液病棟に15床からなる無菌ユニットが設置されました。さらに、この無菌ユニット以外にも血液病棟本体の個室のうち2床はクラス10000の無菌室として可能な要件を備えており、最大17床の無菌室体制が可能となったため従来に比べ余裕を持って運用してゆることが可能となりました。

3) がん化学療法・緩和ケア

2008年2月、当センターが地域がん診療連携拠点病院に指定されたことにより、当科は外来化学療法、緩和ケアにも一層力をそそぐことになりました。外来化学療法は清川哲志部長（外来がん化学療法センター長）、榮達智医長を中心に各科の化学療法レジメンの整備、外来化学療法センターの運営を行っています。また緩和ケアは、院内緩和ケアチームが組織され榮達智医長がその中心の緩和ケアチームリーダーとして緩和ケア診療が行われています。そして、2008年12月に日本臨床腫瘍学会認定がん薬物療法専門医を榮達智医長が熊本県で初めて取得しました。

研究実績

臨床研究では、血液疾患関連の我が国の最先端の各種の臨床研究に参加しています。さらに、国立病院機構ネットワークの基幹研究施設として共同研究に積極的に取り組んでおり、全国的に展開される血液疾患の治療研究の推進に大きな役割を果たしています。院内では循環器科と協力して血管再生医療に取り組み、先端医療を行っています。また、臨床治験も最重要課題として取り上げ、多くの課題に取り組んでいます。

第3回 ナースのためのエンド・オブ・ライフ・ケアセミナー (ELNEC-J コアカリキュラム)を開催しました

ELNECとは、アメリカで開発されたエンド・オブ・ライフ・ケアを提供する看護師のための包括的・体系的な教育プログラムで、世界各国で通訳され日本でも3,000人を超える多くの方々が同じプログラムを学んでいます。高齢化社会を迎える日本では、「高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケア」のモジュールを世界に先駆け取り組んでいます。

本年度は、8月23日(土)24日(日)の終日、「第3回 ナースのためのエンド・オブ・ライフ・ケアセミナー：ELNEC-J コアカリキュラム」を開催致しました。熊本県では唯一の研修であり、申し込み開始30分で定員に達しキャンセル待ちが出るほどの人気の研修です。がん診療連携拠点病院や一般病棟、緩和ケア病棟、訪問看護ステーションなどさまざまな場所で勤務されている看護師46名が受講されました。講師には、福岡県立大学看護学部臨床看護学領域教授 村田節子先生をお招きし、ELNEC-J指導者研修を受けたがん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師、計10名で講義や演習を担当しました。



エンド・オブ・ライフ・ケアセミナーの様子

研修内容としては、概論や症状マネジメント、倫理や文化、高齢者、コミュニケーション、看取りのケアなど10のモジュールの講義とグループワーク、ロールプレイという充実した内容構成となっています。

グループワークでは「看護の温かさを感じ明日から活用したいという明日への意欲となった」「基本に立ち戻り、ケアすることの大切さを強く感じた」「一つ一つの日ごろのケアの継続が重要だと改めて学んだ」など、多くの学びと同時にケアに対する志を熱心に発表し合い、やる気に満ち溢れていました。

受講生のみならず本当にお疲れ様でした。それぞれの部署における今後のご活躍をお祈りし、エンド・オブ・ライフ期にある人々が自分らしくお過ごしいただけますことを重ねて祈念しております。

(緩和ケア認定看護師 岩井 幸)



グループワークの様子

熊病の歴史

旧国立熊本病院時代の地域災害活動記録

当院は年に一度災害訓練を行っていますが、災害には色々なパターンがあります。平成24年7月11日からの九州北部集中豪雨による白川氾濫で、熊本市北区龍田周辺の被害に防災ヘリの活動映像がありましたが、市内の状況も白川河川沿いの低地に土壌が積まれ、この時繁華街は冠水一步手前で大変心配しました。また、記憶に新しいものでは平成26年8月20日広島市で発生した豪雨による大規模な土砂災害であります。

そこで、当院先輩の残されました、旧国立熊本病院時代の地域災害活動記録が見つかりましたので、紹介をしたいと思います。

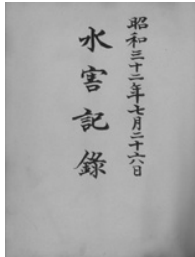
皆様には昭和28年6月26日、熊本市大水害の事はお聞きになられたことがあると思いますが、それから満4年と1月、昭和32年7月25日からの豪雨で、長崎県諫早市で推定2,000名以上の死者が出て、また昭和32年7月26日、熊本県は熊本市に災害救助法を発動し総出で救援作業を行っています。

被害状況は、井芹、坪井の両河川が氾濫し、熊本鉄道管内で鹿児島本線・三角線・豊肥線・それぞれが道床流失、土砂崩壊、駅構内浸水が続発、貨車も転覆し、まさに鉄道ズタズタの状態、復旧にかなりの時間を要する見込みであった。また熊本市松尾町椿原で長さ1,000m巾50mの山津波が起こり27棟が土砂に埋もれ行方不明59名を出した。一方熊本市内では市電は立往生し、下通は小舟で渡し、腰まで水浸しで出勤、5,000人が被災したと記録され、その他多数の被害が発生していた。

その時、当院はいち早く活動を開始していた。7月26日院内で災害対策委員会を設け救護班を編成、熊本県・熊本市対策本部と連絡を取り、また宿日直を増員、外部との連絡を密にし病院内外の警戒を厳にする。7月26日熊本県災害対策本部より救護班の編成待機を要請さる。救護班派遣は7月26日派遣先熊本市松尾町に向け午後6時出発、帰院7月27日午前1時37分：編成内容医師1名、看護婦2名、自動車運転手1名、装備：自動車、衛生材料若干、なお交通途絶のため負傷者等収容不能。その後救護班の派遣は7月29日まで続く。当院罹災者収容状況：7月26日熊本市段山町杉塘地区が1.5m浸水のため約20名午前1時30分病院長宿舎に避難、午前2時施設内職員非常召集、看護学院学生と共に午前2時30分避難者約20名を看護学院に収容、午前5時頃旧飽託郡天明町・熊本市池田町（京町施設北側周辺）・段山町より続々と避難有り午前8時頃には200名超過し旧病棟（倉庫に使用中）を開放し収容者を移動させる。その後朝食250名分緊急給食する。収容所に診療所を設置及び消毒液を備える。罹災者に町内毎に世話係を置き連絡、給食等に当たるよう指導さらに衛生上の注意を与え伝染病の発生を警戒する。熊本市災害対策本部に罹災者収容状況を連絡すると共に寝具の貸与、疾病、負傷者の診察を行う。夕食385名分を緊急給食する。7月27日朝食369名分緊急給食し昼食（パン1個）356名分熊本市より配給、夕食（パン1個）369名分熊本市より配給その後収容中の罹災者全員に入浴させる。罹災者の数は流動的で、7月29日まで当院でできる範囲のことを最大に活動している。また病院職員も登庁できない者35名、その後被害職員の程度に応じ救援（防疫等に関し）を実施したと記録されている。

災害は忘れた頃にやってくると言いますが、今年も国内で災害が起きておりますので皆様御用心下さい。この当時の地域災害活動に対応されました先輩方のご苦勞に対しまして、敬意を表したいと思います。

企画課 財務管理係
山田晃七郎



↑ 流された上の橋が原形がそのままひっかかっている井芹川の橋で早くも流木の引き上げ作業が始まった。



↑ ボデーを濁流に埋めて立往生したトラック



↑ 熊本市新堀橋下崖くずれの復旧作業（巨木の根っこがブルドーザーに押されレッカーに曳かれて片づけられてゆく）昭和32年7月28日



↑ 被災者収容状況 京町施設旧病棟



↑ コッペパンを配給

死者 155 名		損害 66 億圓	
罹災者総数	148,982人	民生 関係	35,300万円
死者	155人	土木 関係	160,300万円
行方不明	24人	耕地及開拓関係	81,000万円
重軽傷	297人	林業 関係	19,300万円
住家全壊流失	277戸	農水産 関係	179,000万円
同半壊	333戸	商工 関係	80,400万円
床上浸水	11,879戸	衛生 関係	2,700万円
床下浸水	17,682戸	鉄道、専売その他	104,200万円
田畑冠水	20,945町歩	総計	662,200万円

(32. 7. 31現在)



← 濁流と化した下通町（消防署の小舟で渡る人たち）昭和32年7月26日 熊本日日新聞

熊本大学大学院生命科学研究部腎臓内科学分野 向山政志 教授の特別講演が行われました

平成26年8月20日に熊本大学大学院生命科学研究部腎臓内科学分野の向山政志（むこうやま まさし）教授より「CKDと高血圧治療の新展開～JSH2014を中心に～」と題する特別講演がありました。

向山先生は今年の4月から前任の富田公夫教授の後をうけて、二代目の熊大腎臓内科教授として着任されました。京都大学医学部のご出身で、専門分野は腎臓病学、内分泌学、高血圧、心血管内分泌代謝学であり、研究分野は特に腎疾患における循環調節ホルモンの意義とtranslational research、創薬への応用です。

今回は日本高血圧学会の高血圧治療ガイドライン



講演される向山政志教授

2014年の主要な改訂点を中心に、さらには教授のこれまでの研究内容や、CKDとメタボリック症候群、ナトリウム利尿ペプチドファミリーとCKD等最新の多岐にわたるトピックを素人にもわかりやすく解説されました。

慢性腎臓病患者における降圧目標は、糖尿病があるか、または蛋白尿を有する者については降圧目標を130/80mmHg未満とし、第一選択薬をRA阻害薬としますが、糖尿病ではなく蛋白尿も陰性の症例では降圧薬目標は140/90mmHg未満とし、第一選択薬をRA阻害薬に限定しないこと等をお示しいただきました。

（腎臓内科部長 富田正郎）



特別講演会場の様子

紹介予約センター開設のご案内

この度、一般外来におけるご紹介の予約受付を便利に、また、待ち時間短縮のため紹介予約センターを開設致しました。翌日以降の受診についてお電話でのご予約が可能です。緊急受診を要せず翌日以降の受診で良い場合、また、受診希望の診療科との特別な調整を要しない等の場合には、センターご利用のうえ翌日以降のご予約をお願い申し上げます。また、緊急その他の場合については、従来通り地域医療連携室までご連絡ください。

(旧)

FAX予約

地域医療連携室		
翌日以降の受診	当日の受診	その他の受診

(新)

電話予約



FAX予約

紹介予約センター	地域医療連携室
翌日以降の受診	当日 その他の受診

（従来通りです。）

① **まずはお電話を専用096-353-6565 or 6566へ**

予約日時をその場でお伝えします。（仮予約）

- 1) 電話受付時間は月～金 8:30～15:00
- 2) 以下の項目をお教え下さい。

- ・患者様の氏名、生年月日、電話番号
- ・お持ちの方は当院のID番号
- ・ご希望の診療科、診察医師名、受診日時

② **当日中にFAXを専用096-353-6563へ**

予約申込書をご送信下さい。先の項目を確認します。
（本予約）

【お問い合わせ先】

紹介予約センター 096-353-6565 or 6566

○ **FAXを096-323-7601へ**

予約申込書をご送信下さい。

- 1) FAX受付時間は月～金 8:15～17:15
- 2) 当日受診（緊急、準緊急、その他）
- 3) 胃瘻・シャント造設のご相談等
- 4) MRI/CT予約、歯科・歯科ご相談等
- 5) 予約センターの受付時間外（15:00～）

【お問い合わせ先】

地域医療連携室 096-353-6501（内2360）

第12次米国医学研修に参加しました

皆さんは、熊本市がアメリカ、テキサス州のサンアントニオ市と姉妹都市であることをご存じでしょうか。熊本市医師会は、サンアントニオ市のベア郡医師会と長年の交流をおこなっており、今回私は8月23日から31日までの9日間、福島敬祐医師会会長を団長とした医学研修団に参加させていただきました。（交流代表団のことは英語でdelegationと呼びます。）ベア郡医師会の全面的バックアップもあり、サンアントニオ市内のUniversity of Texasの病院群やグループ病院であるVictory Hospital、竣工間近のForest Park Hospital、MCCI Hospital等を見学することができ、病院運営の形態や特徴を知ることができました。また、ボストンにも足を延ばし、ハーバード大学や世界的に有名なMGH（Massachusetts General Hospital）も



エーテルドームにて

訪れました。麻酔科専門医の私にとっては1846年に公開全身麻酔手術が施行されたEther domeも見学でき、大変有意義な研修となりました。

（麻酔科部長 瀧 賢一郎）

がん経験者によるピアカウンセリング「おしゃべり相談室」が開設されました

9月2日から熊本県より委託を受けて熊本県がん経験者によるピアカウンセリング事業「おしゃべり相談室」が開設されました。ピアカウンセリングとは、同じような背景や経験を持つ仲間が行う相談・援助のことです。家族や医療従事者には語れない不安や迷いについて、カウンセリングを学ばれたがん経験者（がんピアカウンセラー）2人の方が個別相談に対応していただきます。同じ経験を持つ方に話しを聞いてもらうことで「不安や悩みを話すことで気持ちがすっきりした」「多くの方にこのような相談窓口もあることを知ってもらいたい」との声が聞かれました。相談支援を必要とされる患者さんがいらっしやいましたら、ぜひご案内ください。

（医療ソーシャルワーカー 西迫はづき）

毎月第1火曜日 午後1時～3時にがん相談支援センター（地域医療連携室内）相談室2で開催しています。

がん経験者によるピアカウンセリング
おしゃべり相談室が実施しています

がんと診断されると、誰でも不安や迷いが生まれます。

友人や職場にどう打ち明けたらいいのかわからない、家族に話さずともいえない、ひとりで悩んでいる、がんがうつってどうしたらいいのかわからない、など

「おしゃべり相談室」で、がんを相談された方とお話ししてみませんか？
戸惑いや不安な気持ちも、あつちの相談員がサポートすることで、気持ちの整理ができるかもしれません。

相談員は、がん経験者です。同じような経験や悩みを抱えている方が、相談員として活躍しています。相談員は、がん経験者です。同じような経験や悩みを抱えている方が、相談員として活躍しています。

「おしゃべり相談室」の開催日時・開催場所・受付時間

開催場所：熊本県立総合医療センター
開催日時：毎月第1火曜日
13時～15時
09月22日（火）
10月20日（火）

受付時間：13時～15時
09月22日（火）
10月20日（火）

お問い合わせ先
がん相談支援センター
096-363-1364

放射線治療専門放射線技師の認定資格を取得しました

このたび放射線治療専門放射線技師の認定試験を受験し、無事に合格することができました。現在の取得者数は約1300名であり、当院では私で2名となります。

この認定資格の受験には、①放射線治療業務に5年以上従事していること②関連学会等に5年以上在籍していること③研究会や学会発表等で20ポイント以上を取得していることが必要であり、受験するまでに高いハードルがあります。また合格するためには、放射線治療に関する臨床上の知識や、高エネルギー放射線（リニアック等）、密封小線源（RALS等）、治療計画装置等に関する専門的な知識を必要とします。

認定技師の大きな役割は、患者様に安全かつ適切な放射線治療を提供することですので、資格を取得したことに甘んじることなく精進し、当院の放射線治療技



写真上：当院のリニアック装置
写真左：認定証とバッジ

術のさらなる向上を図るとともに後進の教育も併せて行いたいと思います。

最後に、今回の受験の機会を与您えいただきました皆様に感謝申し上げます。

（放射線治療専門放射線技師 中野ちぐさ）

最近のトピックス

無症候性微小脳出血 microbleedsについて



脳神経外科部長
大塚忠弘

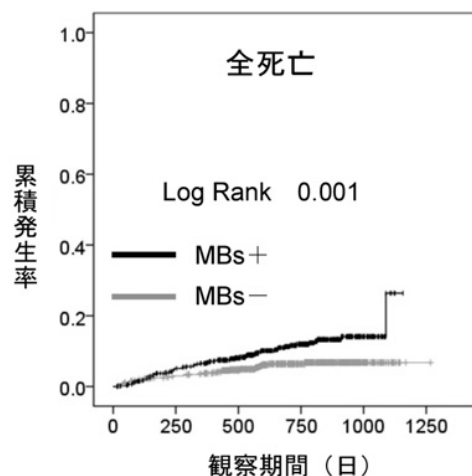
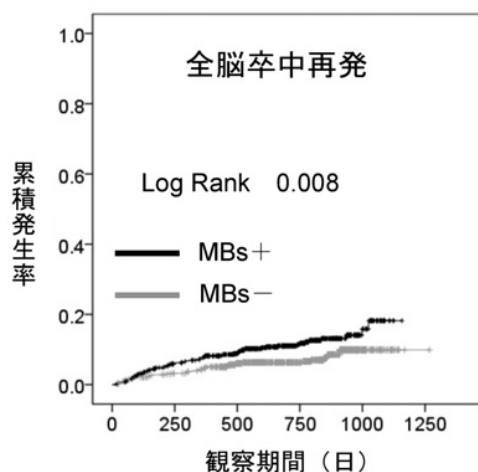
ヘモジリン感受性の高いMRI撮影法 (T2*) で診断される無症候性微小脳出血microbleeds (MBs)は、脳血管脆弱性の指標と理解され脳卒中分野では最も注目されている病態の一つです。1990年代に入りその存在が明らかとなり、以来、国内外で報告が急増し臨床的意義について注目されています。MRIでは径が約5ミリ程度の脳出血癍痕スポットとして描出され、症状のない微小な脳出血が過去に発生したことを示します。謂わば、脳出血版、かくれ脳梗塞ならぬ“かくれ脳出血”とも言うべき病態です。MBsが注目される主な理由は二つあり、ひとつは将来の症候性（顕在性）脳出血を予兆するものではないか、他方は抗血小板/凝固薬等の脳梗塞治療により脳出血を誘発しないか、という懸念です。しかし、これまでの報告は、小規模後ろ向き研究が主であり、エビデンスレベルは必ずしも高くありません。そこで、熊本医療センターが研究主任施設となり、本邦初の多施設大規模調査として国立病院機構傘下の43施設による前向きコホート研究を

実施しましたので（国立病院機構EBM推進のための大規模臨床研究、MARS研究）microbleedsの臨床像と意義について要旨を以下に付記します。HRはhazard ratioの略で、コックス比例ハザードモデルによる多変量解析を行いました。

要旨：

平成20年7月～22年6月に発症した50才以上の脳卒中患者1180名（脳梗塞732名、脳出血448名：MBsあり609名、MBsなし571名）で平均666日間追跡し、次の結果を得た。

- 1) 脳卒中再発を110名（脳梗塞82名、脳出血30名）に認め、再発率はMBsあり群で12%、MBsなし群で7.2%であった。MBsは脳卒中全体の再発 (HR, 1.7) および脳出血単独の再発 (HR, 3.3) の有意なリスクとなり、特にMBsが多発する場合にそのリスクが高い。一方、脳梗塞単独の再発との関連は認めない。
- 2) 死亡を100名に認め、全死亡率はMBsあり群で11%、MBsなし群で6.0%であり、MBsは全死亡の有意なリスクとなる (HR, 1.6)。
- 3) MBsの増加（新生）を660名のうち135名（20%、年間増加率11%）に認め、加齢 (HR, 1.03) また飲酒 (HR, 1.7) やアスピリン (HR, 1.7) を内服する場合に有意に増加する。
- 4) MBsを有する患者に対し、tPA、オザグレール、アルガトロバン、ヘパリン等の脳梗塞急性期治療薬や脳梗塞慢性期に抗凝固/血小板薬を使用しても脳出血を誘発しない。従って、脳梗塞治療を優先して薬物を使用するよいと思われる。



研修医レポート

臨床研修医

かわかみ ゆうし
川上 裕史



こんにちは、研修医1年目の川上裕史と申します。熊本市出身で熊本大学を卒業しました。今年の4月からそのまま地元の熊本医療センターにて初期臨床研修をさせていただいております。研修から5か月が経過しましたが、まだまだ分からないことが多く、回りの同期や上級医の先生、看護師さんやコメディカルの方々に助けられながら研修生活を送っております。

私は4月から麻酔科で研修が始まりました。麻酔科では腰椎穿刺、気管挿管、静脈ルートなどの手技を多く実践する機会をいただきました。また、手術中はバイタルの変化に対してすぐ原因を探し、合併症に注意

しながら薬剤を駆使して、全身管理していく方法を学び、大変勉強になりました。

次の神経内科では、当院は急性期病院ということもあり、主に脳梗塞を中心として患者様を診させていただきました。初めて病棟の患者を受け持ったということもあり、カルテやオーダーの仕方から苦労していました。患者の日々の訴えに対して、原因や検査、治療を考え、また、脳梗塞の病態を考えながら、患者の治療を学んだりさせていただきました。

救急救命部では救急外来で研修をさせていただきました。患者の主訴から鑑別を考え、診察をして、検査を行い、診断を考えることは、これから医師として働く上で大変勉強になりました。自分の診察から疾患を予想できることもありますが、症状から全く予想がつかないこともあり、勉強不足であると感じております。また、診断だけでなく、縫合、髄液検査などの手技も研修させていただきました。

未熟者でこれからも多くの先生方にご迷惑をおかけするかと思いますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

臨床研修医

かわそえ けんたろう
川副 健太郎



こんにちは、研修医1年目の川副健太郎と申します。私は佐賀県出身で高校まで佐賀にて、大学は岡山にて過ごしました。熊本という土地には縁もゆかりもなく、右も左も分からない中での初期臨床研修開始となりました。研修が始まり早いものでもう4ヶ月が過ぎようとしています。指導医の先生方を始め、多くのスタッフの方にご指導いただきながら充実した研修生活を送っております。

これまで麻酔科、循環器内科で研修をさせていただきました。4月から研修させていただいた麻酔科では、様々な手技を実践させていただく機会があり、指導医の先生方には点滴ルートの採り方から全身管理まで幅広く学ばせていただき大変勉強になりました。

次にローテートした循環器内科では、様々な合併症を抱える患者さんに出会い、指導医の先生との日々の治療方針などのディスカッションを通して、教科書では学べない臨床的な知識や経験を得ることができました。

現在は救急救命科で研修中ですが、一刻を争うような重症症例を数多く目の当たりにし、何も出来ずに立ちすくむだけの自分にもどかしさを感じる日々の連続です。焦らずに目の前のことに取り組み、一步ずつ丁寧かつ着実に出来るようになることが目標です。

研修生活は落ち込むことも多々ありますが、恵まれた環境で研修できることを嬉しく思うと同時に一日一日を大切に、苦しい時も笑顔で乗り越えていければと考えております。

初期研修を通じて周りの人への感謝の気持ちを忘れず、素直な気持ちで日々精進していきたいと思っております。ご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、今後とも、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

研修のご案内

第157回 三木会（無料）

（糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜2群＞0.5単位認定〕

日時▶平成26年10月16日（木）19：00～20：45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「急性膵炎を合併したGAD抗体陽性劇症1型糖尿病の一例」
国立病院機構熊本医療センター糖尿病内分泌内科
宇野克明、堀尾香織、坂本和香奈、橋本章子、小野恵子、高橋毅、豊永哲至
2. 「ソフトドリンクケトアシドーシスを起こした若年2型糖尿病の一例」
国立病院機構熊本医療センター糖尿病内分泌内科
和田敏明、前原遼、吉田麻美、堀尾香織、坂本和香奈、橋本章子、小野恵子、高橋毅、豊永哲至
なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。
〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 豊永 哲至 TEL 096-353-6501（代表）内線5796

第189回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成26年10月20日（月）19：00～20：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 内科基礎講座 国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科医長 名村 亮
2. 症例検討 「横隔膜交通症の一例」 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科 坂梨 綾
3. ミニレクチャー「血液の最近のトピックス」 国立病院機構熊本医療センター血液内科医長 井上佳子
日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。
〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター統括診療部長 清川 哲志 TEL：096-353-6501（代表）FAX：096-325-2519

第116回 総合症例検討会（無料）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成26年10月22日（水）19：00～20：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

テーマ：『激しい胸背部痛』（40歳代 男性）
臨床担当）国立病院機構熊本医療センター心臓血管外科部長 岡本 実
病理担当）国立病院機構熊本医療センター臨床研究部病理研究室長 村山寿彦、成毛有紀
「急性心筋梗塞にて入院後8日目に激しい背部痛のために動けなくなった。」

* 臨床経過の詳細な検討と鑑別診断を行います。最後に病理よりマクロ、ミクロの所見と剖検診断が解説されます。通常のレクチャー（解説）の前に、馴染みの少ない疾患、病態は、その分野に関するミニレクチャーを予定しております。基本的知識を学んだ後で活発なディスカッションをお願い致します。どなたもお気軽にご参加下さい。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501（代表）内線2630 096-353-3515（直通）

第45回 症状・疾患別シリーズ（会員制）

〔日本医師会生涯教育講座2.5単位認定〕

日時▶平成26年10月25日（土）15：00～17：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

- 座長：樽美外科整形外科医院 院長 樽美光一 先生
- 演題：「腰部脊柱管狭窄症の病態と治療について」～保存療法から内視鏡手術まで～
1. 腰部脊柱管狭窄症の病態と保存療法について 国立病院機構熊本医療センター整形外科部長 橋本伸朗
 2. 腰部脊柱管狭窄症に対する内視鏡手術について 熊本大学医学部附属病院整形外科講師 藤本 徹 先生

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費10,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501（代表）内線2630 096-353-3515（直通）FAX 096-352-5025（直通）

2014年 研修日程表 10月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

10月	研修センターホール	研 修 室
1日 (水)		
2日 (木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「救急で問題となる肝疾患」 国立病院機構熊本医療センター消化器内科部長 杉 和洋	
3日 (金)		18:30~20:30 熊本地区核医学技術懇話会 (研2)
4日 (土)	9:30~15:30 第35回 ナースのための心電図セミナー 〈講演〉心電図の基礎 各種心疾患における心電図 不整脈 〈実習〉心電計の取り扱い方 国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長 宮尾雄治 国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長 藤本和輝 すえふじ医院 院長 末藤久和 国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長 藤本和輝 他	
5日 (日)		
6日 (月)		
7日 (火)		
8日 (水)		
9日 (木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「急性腹症 (内科疾患)」 国立病院機構熊本医療センター消化器内科部長 中田成紀 18:30~20:00 熊本県臨床検査技師会一般検査研究班月例会	
10日 (金)		
11日 (土)		
12日 (日)		
13日 (月)		
14日 (火)		
15日 (水)	14:00~15:00 第19回 市民公開講座 「高血圧の治療」 国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長 藤本和輝	13:00~17:00 糖尿病教室 (研2)
16日 (木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「不明熱の考え方」 国立病院機構熊本医療センター統括診療部長 清川哲志	19:00~20:45 第157回 三木会 (研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]
17日 (金)		15:30~16:45 肝臓病教室 (研2) 「肝硬変について」
18日 (土)	13:00~15:30 第134回 公開看護セミナー 「看護倫理について考えよう」 ～人がひとを見るために～ 熊本大学大学院生命科学研究部 福山美季	
19日 (日)	10:00~12:00 第257回 滅菌消毒法講座 討論会「これで疑問も解決??? ~Q&A大特集~」	
20日 (月)	19:00~20:30 第189回 月曜会 (内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]	
21日 (火)	19:30~20:30 第36回 熊本摂食・嚥下リハビリテーション研究会 「呼吸リハと嚥下」 熊本保健科学大学理学療法士 與座嘉康	
22日 (水)	19:00~20:30 第116回 総合症例検討会 (CPC) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]	
23日 (木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「泌尿器科の救急疾患」 国立病院機構熊本医療センター泌尿器科 矢野大輔 18:30~20:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会 〈細胞診月例会・症例検討会〉	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会 (研2)
24日 (金)		
25日 (土)	15:00~17:30 第45回 症状・疾患別シリーズ 「腰部脊柱管狭窄症の病態と治療について」 ～保存療法から内視鏡手術まで～ [日本医師会生涯教育講座2.5単位認定] 座長 樽美外科整形外科医院 院長 樽美光一 1. 腰部脊柱管狭窄症の病態と保存療法について 国立病院機構熊本医療センター整形外科部長 橋本伸朗 2. 腰部脊柱管狭窄症に対する内視鏡手術について 熊本大学医学部附属病院整形外科講師 藤本 徹	
26日 (日)		
27日 (月)		
28日 (火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会 (研1)
29日 (水)		
30日 (木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「急性腹症 (婦人科疾患)」 国立病院機構熊本医療センター産婦人科 山本 直	
31日 (金)		

研1~3 2階研修室1~3

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ (<http://www.nho-kumamoto.jp/>) をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501 (代) 内線2630 096-353-3515 (直通)